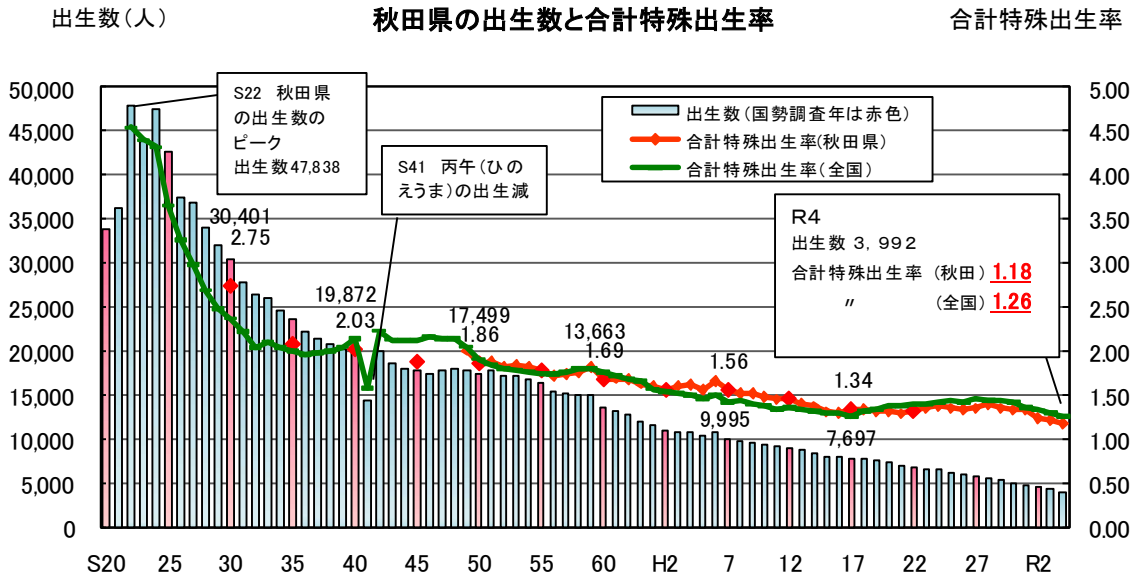


1. 出生・婚姻等の動向

(1) 出生数・合計特殊出生率

秋田県の出生数は、戦後の第1次ベビーブーム期(昭和22~24年)の約4万8千人をピークに減少が続き、令和4年には3,992人まで減少しています。また、合計特殊出生率(一人の女性が生涯に生む子どもの数を示す指標)は横ばい傾向にありましたが、令和4年は1.18と低下しました。



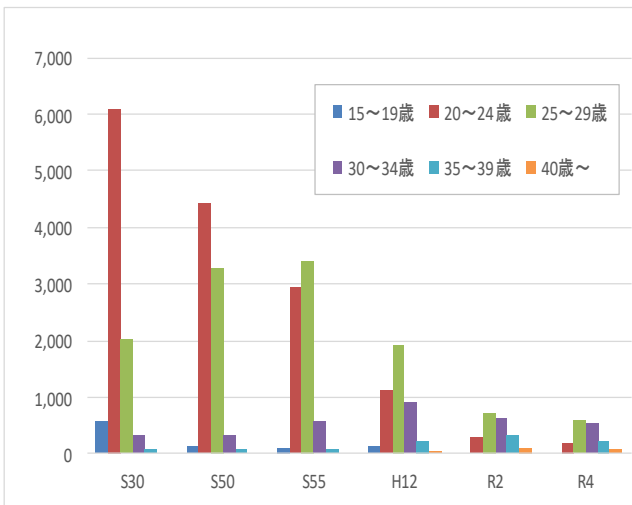
■最近10年間の出生数、合計特殊出生率

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
出生数(人)	6,177	5,998	5,861	5,666	5,396	5,040	4,696	4,499	4,335	3,992
(対前年増減)	-366	-179	-137	-195	-270	-356	-344	-197	-164	-343
合計特殊出生率	1.35	1.34	1.35	1.39	1.35	1.33	1.33	1.24	1.22	1.18

(厚生労働省 人口動態統計)

(2) 第1子を生んだ母の年齢別出生数

母親が最初の子ども(第1子)を生んだときの年齢を年(時代)ごとに比較すると、昭和30年では20~24歳で生んだ第1子の数が最も大きい割合を占めていましたが、昭和55年には25~29歳で生んだ第1子の数が最も多くなりました。令和4年には、25~29歳と30~34歳で生んだ第1子の数の差がなくなっており、それぞれの年齢ごとに生む第1子の数も少なくなっています。



母の年齢別出生数(第1子)

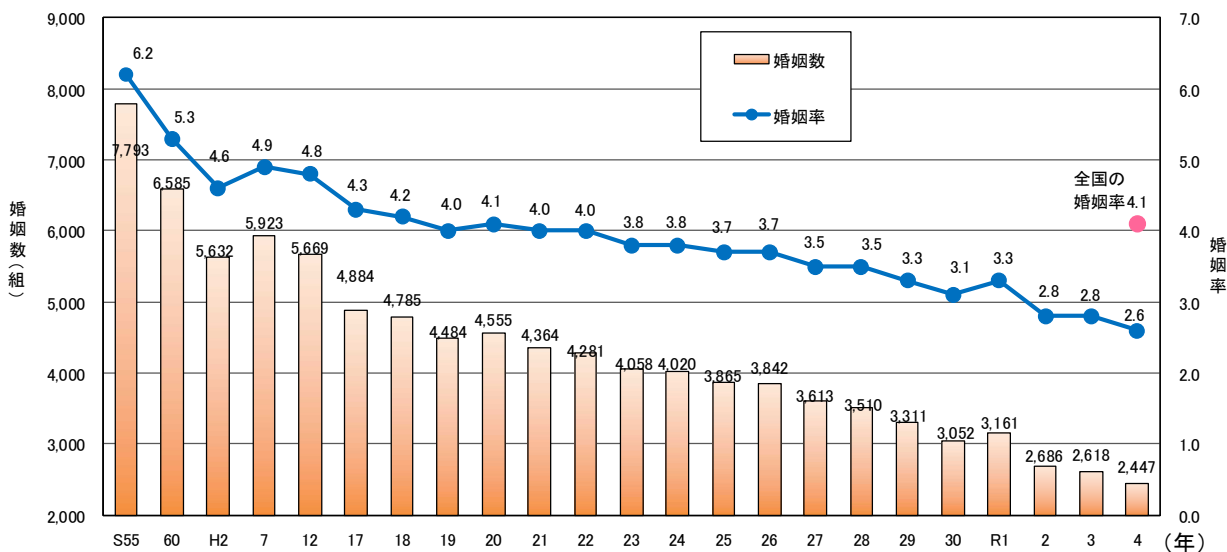
	1955	1975	1980	2000	2020	2022
	S30	S50	S55	H12	R2	R4
総数	9,065	8,238	7,091	4,299	2,014	1,666
~14歳						1
15~19歳	559	134	86	126	16	17
20~24歳	6,086	4,427	2,950	1,123	275	198
25~29歳	2,020	3,281	3,409	1,918	704	595
30~34歳	331	326	576	891	620	548
35~39歳	61	55	61	213	308	236
40歳~	8	15	9	28	91	71

(年齢)

(厚生労働省 人口動態統計)

(3) 婚姻の状況

秋田県の婚姻数は、昭和55年で約8千組ありましたが、令和2年には3千組を割り込み、令和4年は2,447件まで減少しました。婚姻率(人口千人に対する婚姻数)は、平成17年では4.3でしたが、令和4年には2.6まで減少し、平成12年以来、23年連続で全国最下位となっています。



(厚生労働省 人口動態統計)

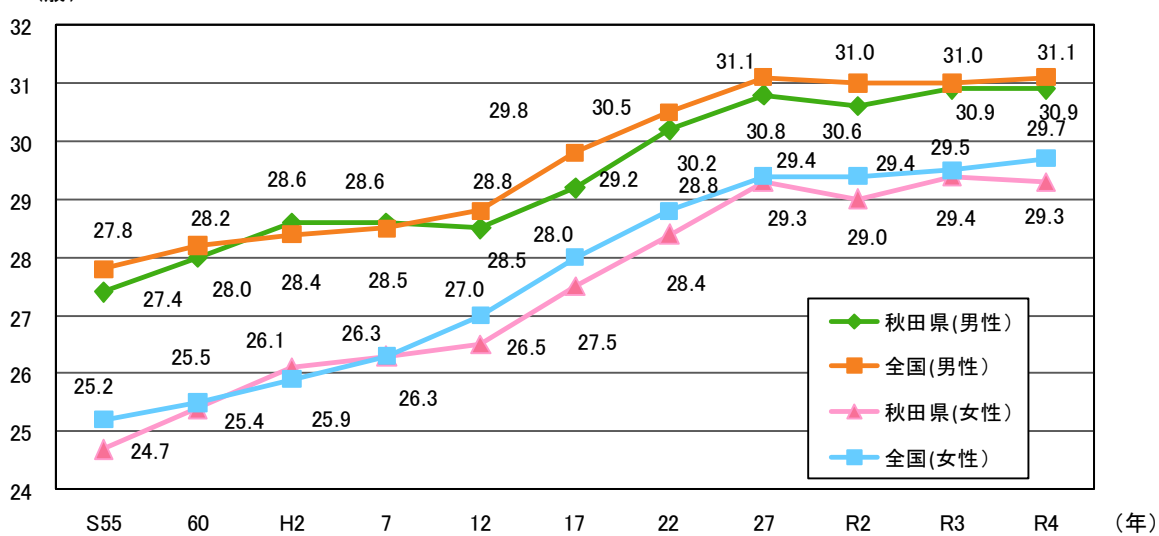
■直近10年間の婚姻件数、婚姻率

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
婚姻数(件)	3,865	3,842	3,613	3,510	3,311	3,052	3,161	2,686	2,618	2,447
(対前年増減)	-155	-23	-229	-103	-199	-259	109	-475	-68	-171
婚姻率	3.7	3.7	3.5	3.5	3.3	3.1	3.3	2.8	2.8	2.6

(4) 平均初婚年齢

秋田県の平均初婚年齢は、全国平均とともに年々上昇傾向にあり、令和4年には、夫が30.9歳、妻が29.3歳と全国平均とほぼ同水準となっています。

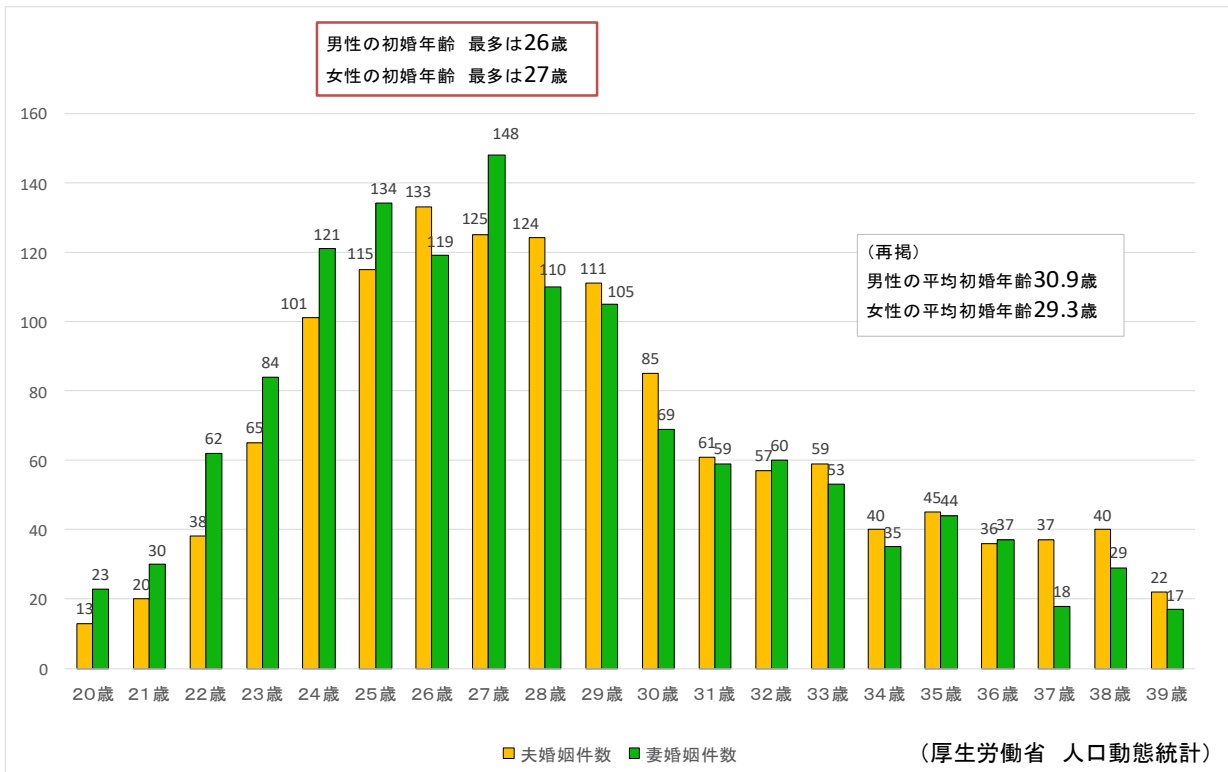
また、女性の平均初婚年齢は、昭和55年と比較して約5年遅くなっています。



(厚生労働省 人口動態統計)

(5)初婚年齢別の婚姻件数(令和4年)

秋田県の初婚年齢別の婚姻件数について、男性は26歳、女性は27歳の婚姻件数が最も多くなっています。



(6)未婚率

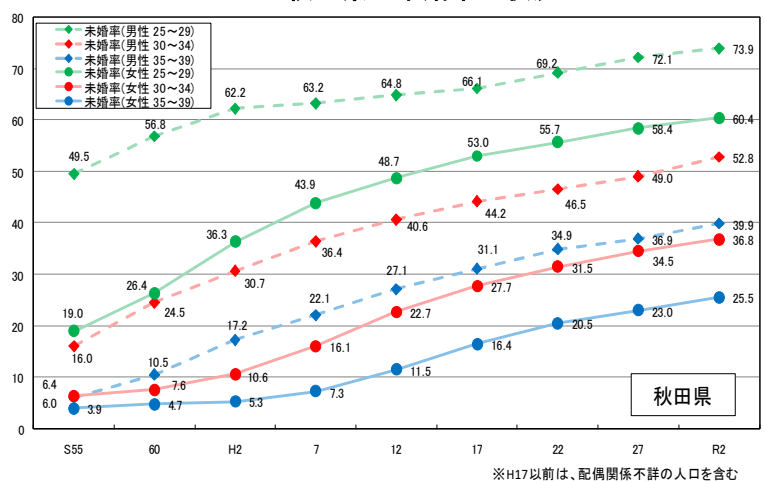
秋田県の未婚率は、男女ともに年々上昇傾向にあります。令和2年の30～34歳の男性の未婚率が52.8%である一方、女性は36.8%と、男性の未婚率はどの年代においても女性よりも高い傾向が見られます。

未婚者数(R2国勢調査)

	男	女	計
15～19歳	18,640	17,565	36,205
20～24歳	14,279	12,365	26,644
25～29歳	11,919	9,050	20,969
30～34歳	10,186	6,870	17,056
35～39歳	9,711	5,982	15,693
40～44歳	9,686	5,479	15,165
45～49歳	8,938	5,204	14,142
上記計	83,359	62,515	145,874
50歳以上	29,993	16,623	46,616
合計	113,352	79,138	192,490

未婚者数：一度も結婚をしたことがない人
(死別・離別を含まない。)

秋田県の未婚率の状況

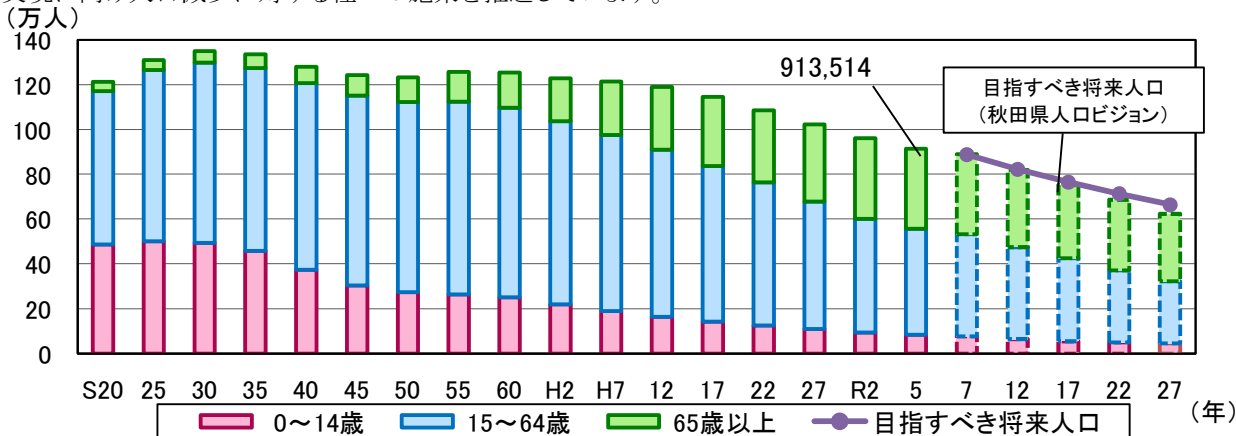


(総務省 国勢調査)

2. 人口の動向

(1)秋田県の人口の推移と将来推計・展望

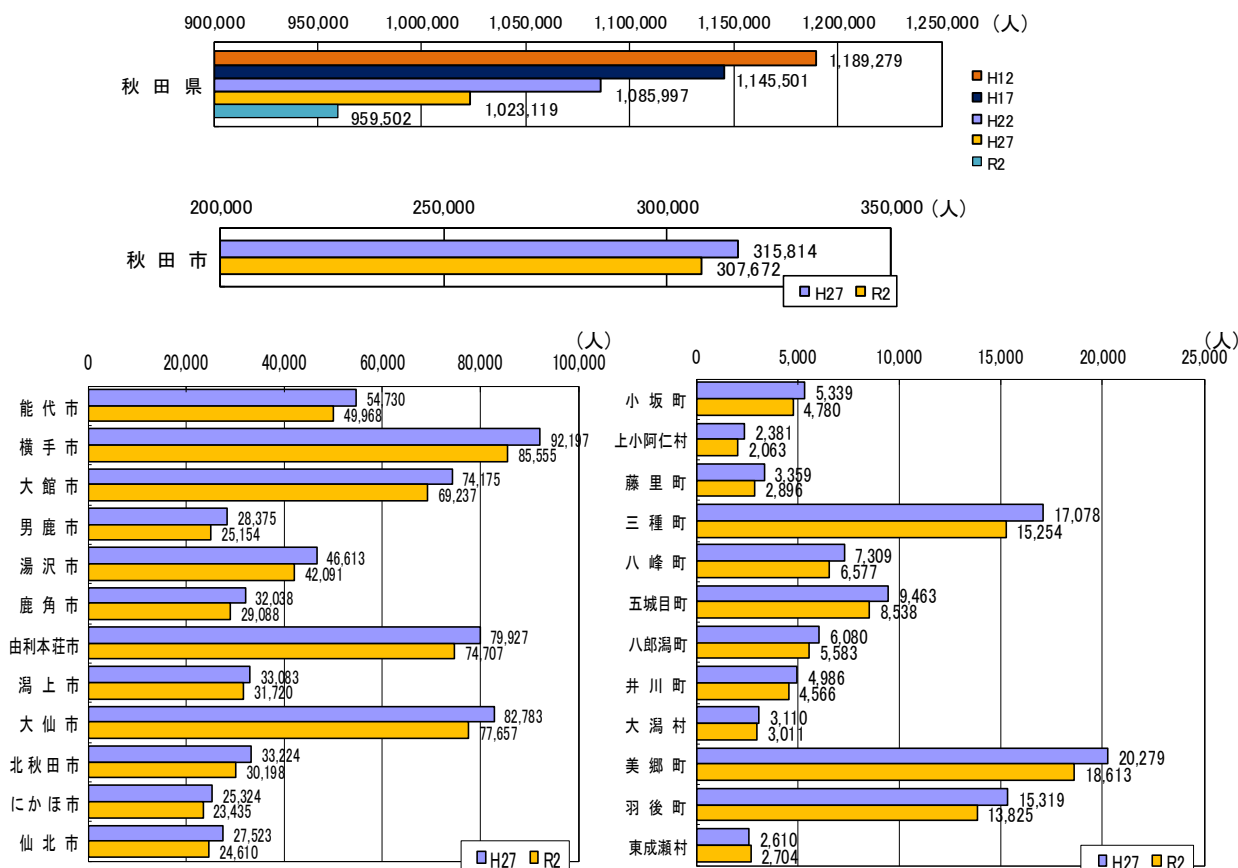
秋田県の人口は、ピークであった1956年(昭和31年)の約135万人から年々減少し続けており、ピークから67年後の2023年(令和5年)には、約44万人少ない約91万人となっています。国立社会保障・人口問題研究所の推計やこれに準拠した推計によると、今後も県人口の減少が続くと予測されるが、平成27年に策定(令和4年3月改訂)した「秋田県人口ビジョン」では、2065年(令和47年)の「目指すべき将来人口」を約51万人と設定し、その実現に向け人口減少に対する種々の施策を推進しています。



(令和2年まで総務省 国勢調査、令和5年は秋田県調査統計課 年齢別人口流動調査)
(令和7年以降は国立社会保障・人口問題研究所の推計、目指すべき将来人口は秋田県人口ビジョン)

(2)市町村別人口

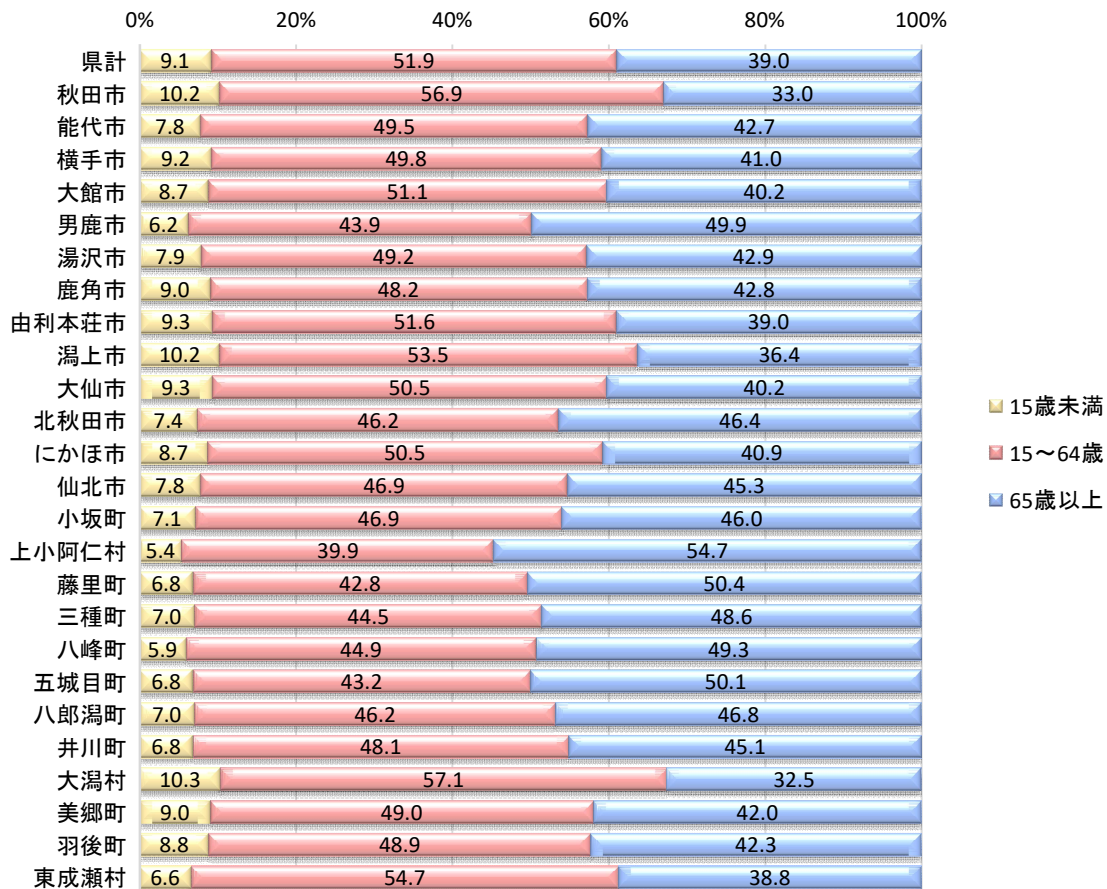
国勢調査によると、県及び市町村の人口は次のとおりです。
※「平成17年」の数値はその後合併した市町村の人口を合計したものです。



(総務省 国勢調査<秋田県調査統計課 令和2年国勢調査に関する不詳補完結果>)

(3)市町村別年齢3区分人口比率(令和5年)

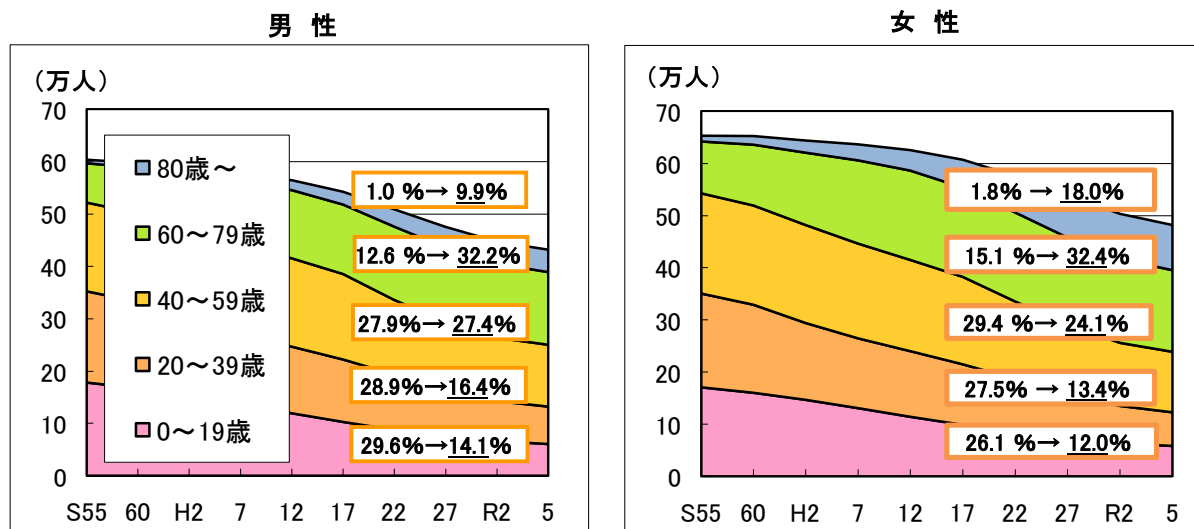
市町村別の年齢3区分による人口比率は次のとおりです。



(秋田県調査統計課 令和5年秋田県年齢別人口流動調査)

(4)年齢別人口構成

年齢を20歳単位(19歳まで、20～39歳、40～59歳、60～70歳、80歳以上)で区切り、その構成比を表すと次のとおりになります。昭和55年と令和5年で比較すると、男女ともに60歳以上の構成比が増えていることがわかります。その一方で、39歳以下の構成比は男女ともに減っています。

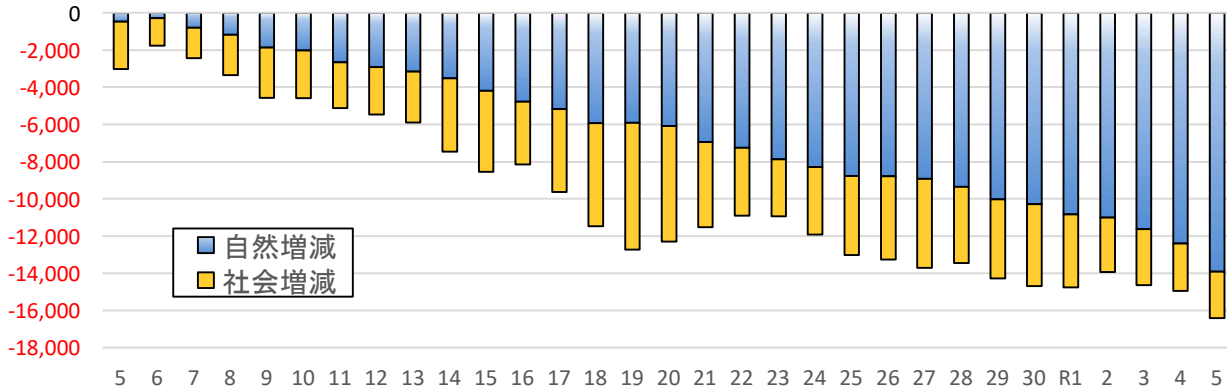


(総務省 国勢調査、R5年は秋田県調査統計課 秋田県年齢別人口流動調査)

(5)秋田県の人口動態の状況

秋田県の人口動態を見ると、社会動態は、常に転出者数が転入者数を上回る社会減となっていて、転出超過のほとんどが15～24歳の年齢区分によるものです。移住定住促進施策の推進により、令和元年には、平成24年以来7年ぶりに社会減が4千人を下回り、令和2年には3千人を下回るなど徐々にその成果が現れています。

一方、自然動態は、平成5年に初めて死亡者数が出生者数を上回る自然減の状態となり、その後は、年々減少幅が拡大しています。

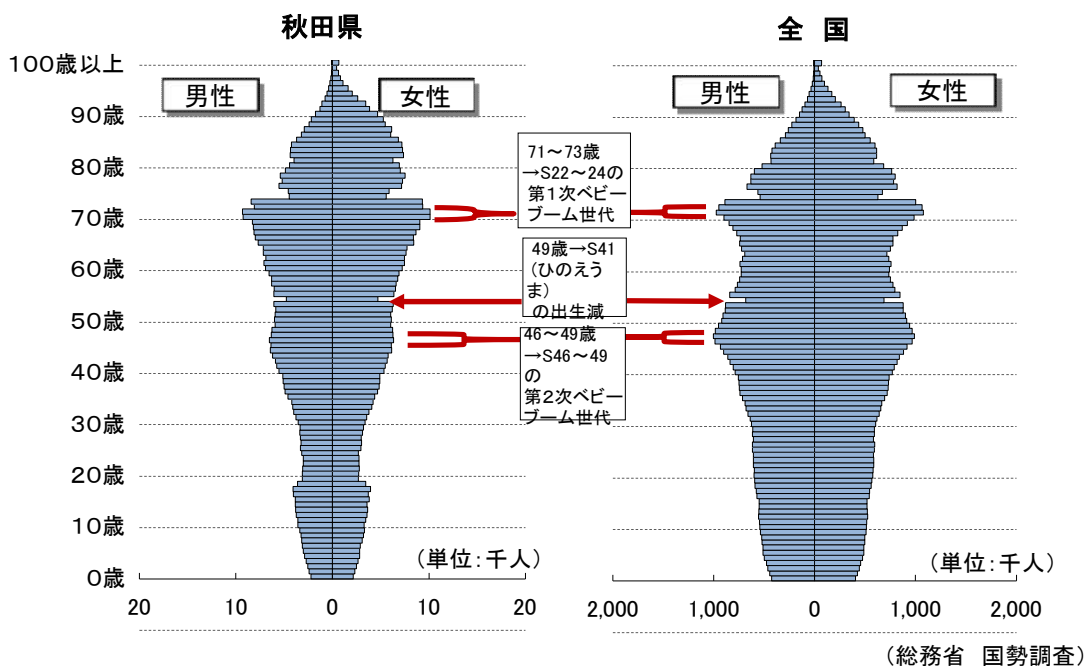


	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
自然増減	-6,938	-7,254	-7,868	-8,293	-8,768	-8,785	-8,921	-9,360	-10,032	-10,280	-10,840	-11,012	-11,636	-12,402	-13,909
社会増減	-4,586	-3,658	-3,071	-3,622	-4,243	-4,486	-4,789	-4,100	-4,253	-4,410	-3,917	-2,910	-2,992	-2,557	-2,492
(うち15～24歳)	-3,957	-3,603	-3,431	-3,201	-3,742	-3,697	-3,624	-3,607	-3,480	-3,538	-3,211	-3,292	-3,110	-2,386	-2,306

(平成5年まで秋田県調査統計課 秋田県の人口と世帯、平成6年以降同課 秋田県年齢別人口流動調査)

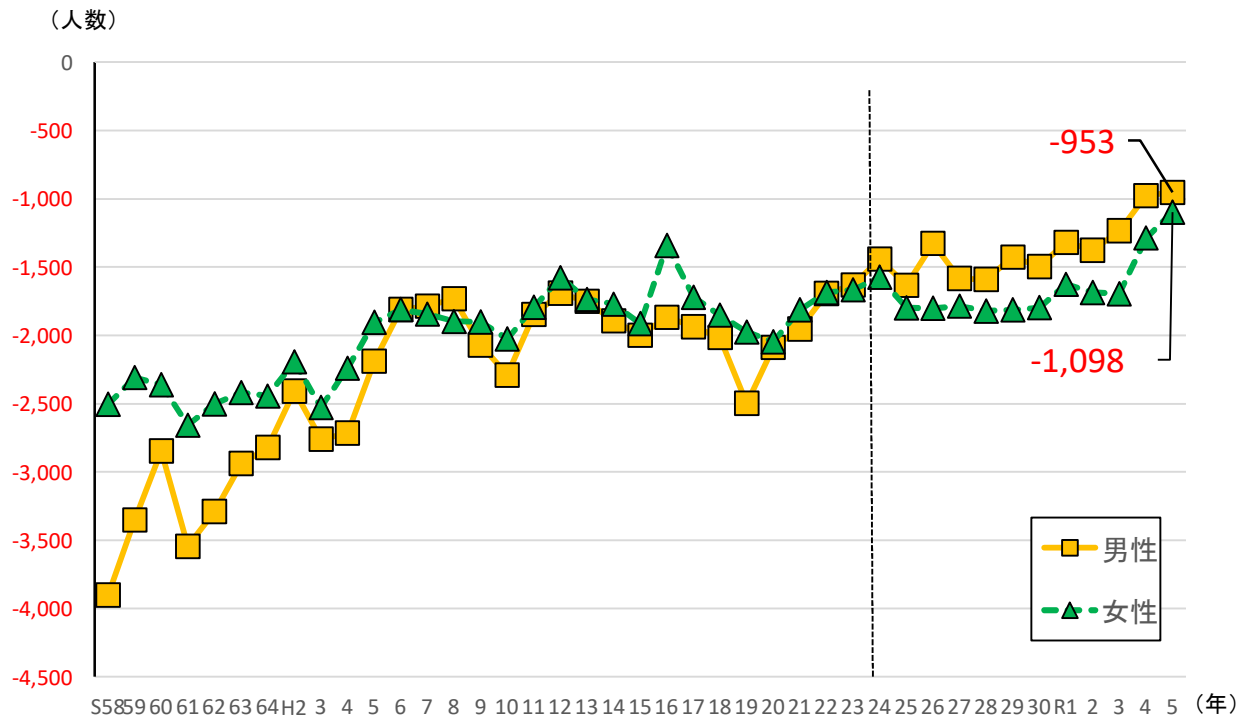
(6)人口ピラミッド

令和2年国勢調査に基づく秋田県と全国の人ロピラミッドを比較すると、秋田県の19～30歳の人口にくぼみが見られ、形の違いが明確に表れており、社会減の状況が反映されています。



(7)18～23歳人口の社会減の推移

秋田県の18～23歳人口の社会減は、平成6～8年を除いて、女性よりも男性の減少数が多い状態が続いていましたが、平成23年以降は、女性の減少数が多い状態に転じています。



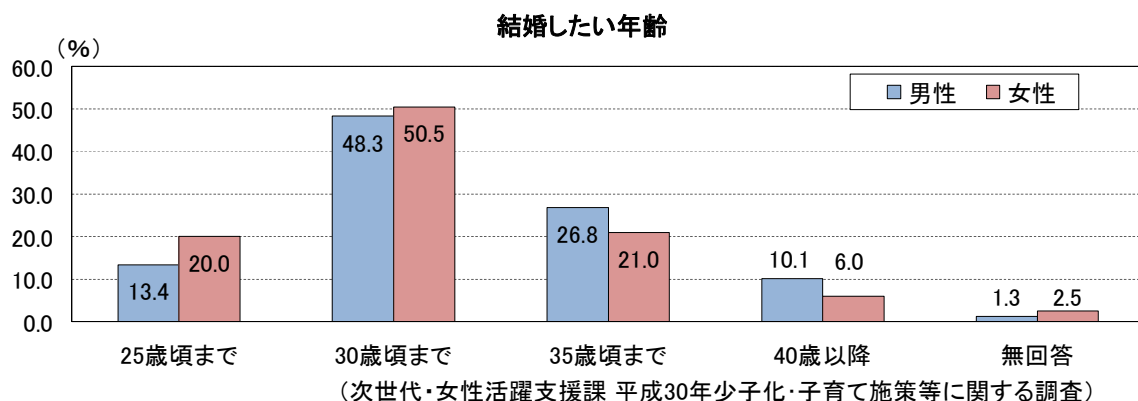
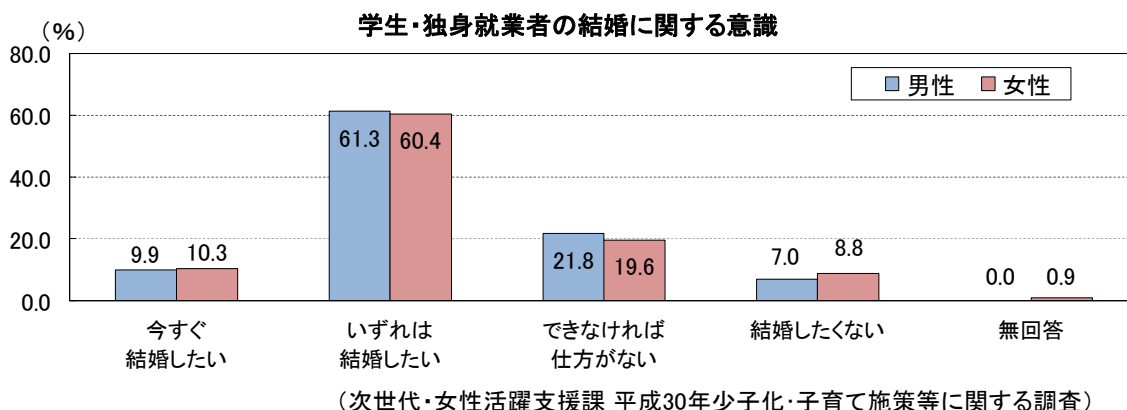
(秋田県調査統計課 令和5年秋田県年齢別人口流動調査)

3. 結婚・子育てをめぐる状況

(1) 学生・独身就業者の結婚に関する意識

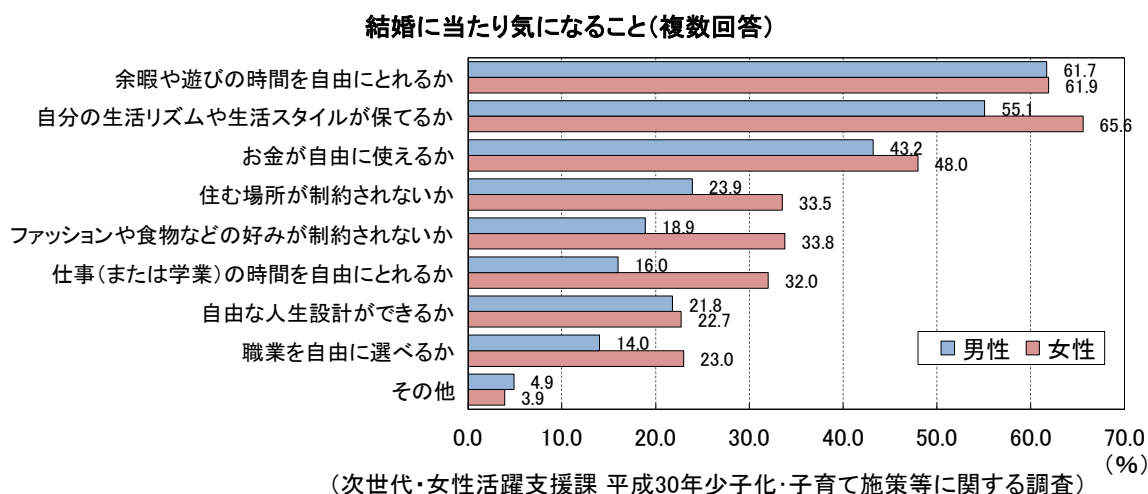
県内の学生や独身の就業者へのアンケートでは、男女ともに「いずれは結婚したい」と答えた人が最も多く、「今すぐ結婚したい」をあわせた結婚に前向きな人は7割を超えています。一方で、「結婚できなければ仕方がない」と考えている人も一定割合います。

また、「いずれは結婚したい」と答えた人に、何歳までに結婚したいかを聞くと、男女ともに「30歳頃まで」を選択する人が最も多くなっています。



(2) 結婚に当たり気になること

県内の学生や独身の就業者に対し、結婚をすることを考えたときに、どのようなことが気になるかを聞くと、男女ともに「余暇や遊びの時間を自由にとれるか」、「自分の生活リズムや生活スタイルが保てるか」、「お金が自由に使えるか」が、上位3項目となっており、男女の意識に違いが見られない傾向となってい

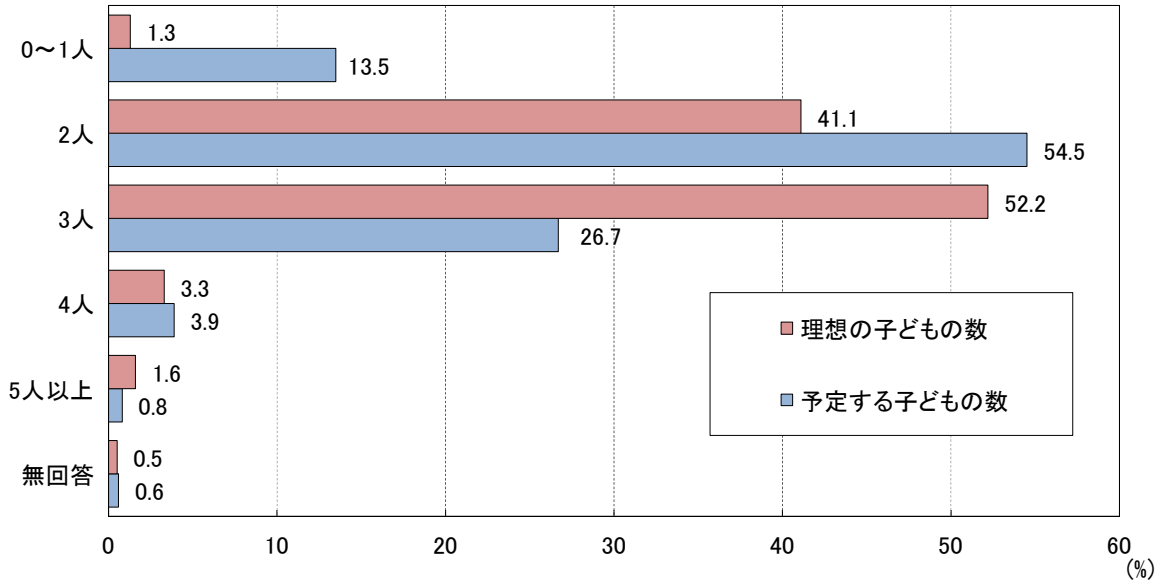


(3)理想の子どもの数と予定する子どもの数

保育園・幼稚園等の未就学児から小・中学生、高校生までの児童・生徒の保護者へのアンケートでは、理想とする子どもの数は「3人」と答えた人が最も多く、その割合は50%を超えています。実際に何人の子どもをもうけるつもりかを聞くと、「2人」と答えた人が最も多くなります。

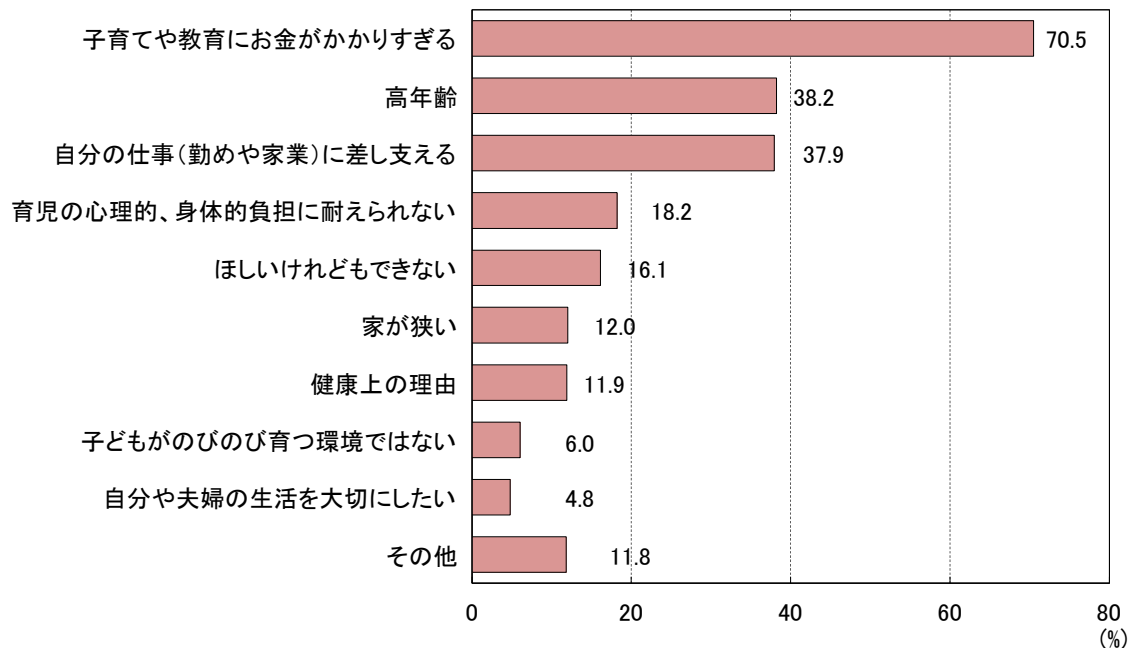
また、こうしたギャップが生じる理由を聞くと、「子育てや教育にお金がかかりすぎる」、「自分の仕事に差し支える」、「高年齢」と答える人が多くなっています。

理想の子どもの数と予定する子どもの数



(次世代・女性活躍支援課 平成30年少子化・子育て施策等に関する調査)

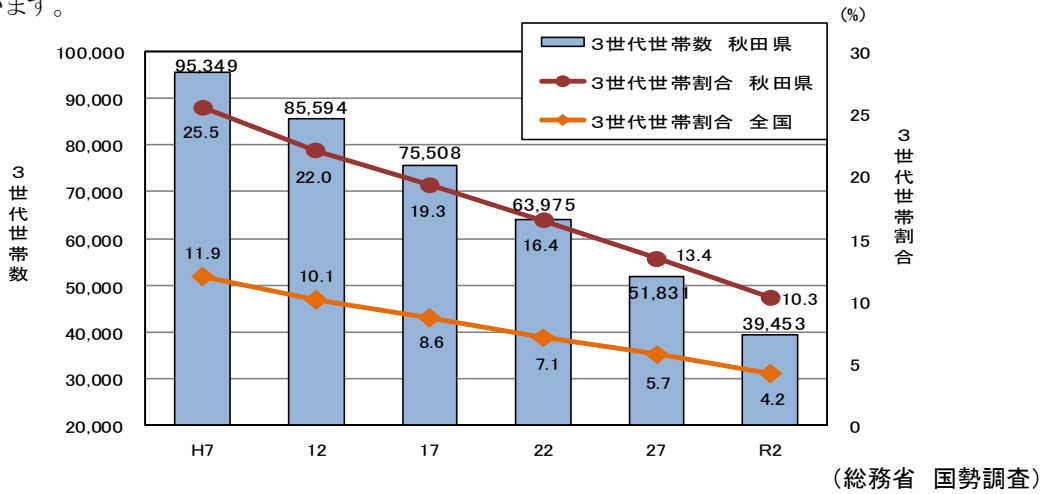
理想とする子どもの人数が持てないと思う理由



(次世代・女性活躍支援課 平成30年少子化・子育て施策等に関する調査)

(4)3世代世帯の状況

3世代世帯は、核家族に比べ、子育てへの協力が得られやすい家族形態ですが、秋田県の状況を見ると、3世代世帯の割合は全国に比べて高いものの、3世代世帯数、3世代世帯割合ともに年々減少が続いています。

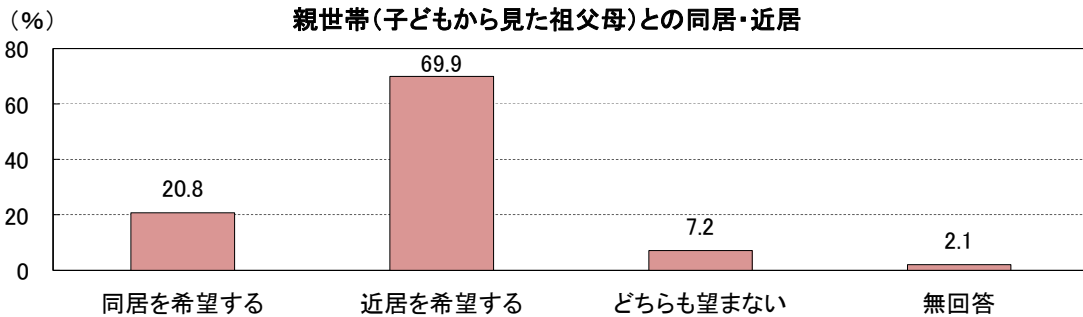


3世代世帯・・・世帯主との続柄が、祖父母、世帯主の父母(または世帯主の配偶者の父母)、世帯主(または世帯主の配偶者)、子(または子の配偶者)及び孫の直系世代のうち、3つ以上の世代が同居している世帯

(5)親世帯との同居・近居、親世帯からの支援

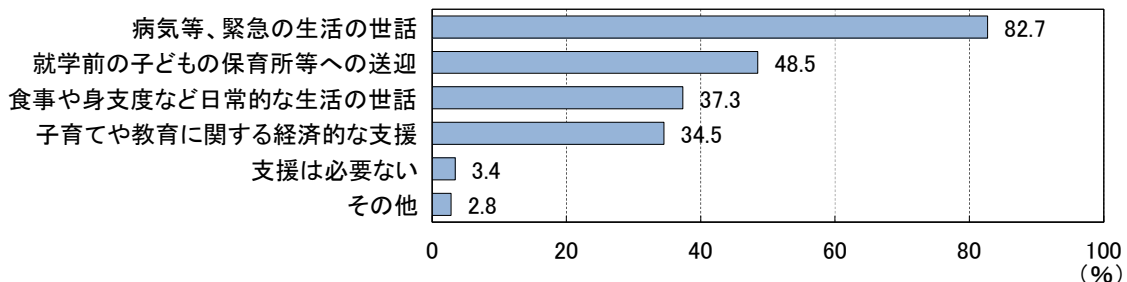
児童・生徒の保護者へのアンケートでは、親世帯(子どもから見た祖父母)との同居・近居を望むかを聞くと、「近居を希望する」が69.9%と最も高い割合となっており、子どもの学年や人数などの区分ごとに見ても、全ての区分で「近居を希望する」の割合が6割を超えています。

また、親世帯からどのような手助けが必要かを聞くと、「病気等、緊急の生活の世話」が最も高い割合となっています。



(次世代・女性活躍支援課 平成30年少子化・子育て施策等に関する調査)

親世帯(子どもから見た祖父母)からの支援(複数回答)



(次世代・女性活躍支援課 平成30年少子化・子育て施策等に関する調査)